2019年1月12日（土）　インド大使館　ウパニシャッド（第27回）

**≪真理を学ぶ≫**

前にお話ししましたが、「ウパニシャッド」とは「先生の近くに行って座り、真理のことを学ぶ」ことを意味します。バガヴァッド・ギーターの内容も「真理」です。それは、バガヴァッド・ギーターの基礎はウパニシャッドだからです。

「真理」は「最高の存在」、「絶対の存在」、「偉大な存在」と同じです。普通の存在と「最高の存在」は何が違いますか。普通の存在は有限で一時的ですが、「最高の存在」は永遠で無限です。

我々はお金も家族も大事ですから普通の世俗的な勉強をしますが、人生のために一番大事なのは「真理」の勉強であり実践してそれを「悟る」ことです。ウパニシャッドの勉強の目的もそれと同じです。ウパニシャッドの内容は「真理」であり、それを勉強しています。

普通の物語には、お化けの物語、犯罪の物語、愛の物語など、たくさんの種類があります。しかしウパニシャッドの内容は一つだけです。「すべてのものは一時的で有限ですが、真理（神様）だけは永遠で無限です、人生の目的はそれを悟ることです」、それだけです。

**＜勉強を続ける理由＞**

そのように、最初から最後まで同じ内容ですから面白味がなく何回も聞きたくないという見方もできます。しかし、バガヴァッド・ギーターの勉強会が始まったのは１５年ほど前になりますので、我々は１５年間にわたりずっと「真理」の勉強を続けていることになります。

バガヴァッド・ギーターの講話に以前から参加されている方もけっこういます。その方たちはずっと同じことを聞いていませんか。どうしてまた参加されていますか。同じことをくり返し何回も聞きに来られるのはなぜでしょうか。何が原因ですか。

インド大使館が好きだからですか（笑い）。聖典の勉強は何が特別ですか。何回も参加する「やる気」は何ですか。それをときどき考えないといけないですね。来て戻るだけのくり返しではロボットのようです。しかし、皆さんはロボットではなく生きていますね。では、皆さんがこうして参加し続ける原因は何でしょうか。

（参加者）教えが深いからです。（マハーラージ）別の答えはありますか。（参加者）世俗に生きていると悟るまでには時間がかかるからです。（マハーラージ）他にはいかがですか。（参加者）一度聞いただけでは忘れるからです。

そうです。それが確かなことです。一回だけではなく**何回も聞いているのに印象が出ていません**。それが原因です。しかし、何回も何回も聞いて結果が出ないということはありません。自分では分からないでしょうが少しずつ少しずつ潜在意識にそれは出ています。

ですから、皆さんが何回も聞いているのはけっして無駄ではありません。すべてのカルマにはその結果がありませんか。聞くこともカルマですから、**今は分らなくても絶対に皆さんの中に残っています**。何回も聞いて何回も聖典の勉強をして印象が出てきます。

ウパニシャッドは昔はたくさんありましたが今は１８だけが残っています。それらのウパニシャッドの言うことはみな同じです。そして、ヒンドゥー教のすべての聖典も、聖書も、コーランも、仏典（ブッダの教え）もみな同じことを言っています。

すべてのものは一時的です。身体も一時的です。しかし、そのことをすぐに忘れてしまいます。例えば、火葬場に行って亡くなった人を荼毘に付しますとその人の身体は灰になります。それを見たときだけは、身体は一時的、人生は一時的だという考えが出ます。

ところで、私は日本に来て少し驚いたことがあります。火葬場ではしばらくの間、待つことになりますが、そのとき皆さんは一緒に食事をしてお酒を飲みいろいろおしゃべりをしています。その場所は本当は考える場所ではないですか。しかし全然考えていません（笑い）。

インドにこういう言葉があります。シュマシャーナ・ボイラッギャ（śmaśāna vairagya）、面白い言葉です。シュマシャーナが火葬場、ボイラッギャは放棄です。火葬場に行って少し放棄の考えが出ます。しかしボイラッギャはそのときだけです。すぐに消えます。すぐに消えますから、その放棄の名前はシュマシャーナ・ボイラッギャです。三日坊主（笑い）。

人生はドラマのようです。我々はその遊びを一生懸命にしています。毎日の生活をします、お世話もします、愛します。ですが、いつも覚えていないといけません、みな「一時的」だということを。もっと遊びたくても、死神が来ればこのドラマのステージから出ないといけない。そのときは待ったなしです。

ですが、それはペシミズム（悲観主義）になるということではありません。真実、リアリティーのことなのです。想像的なことではなく確実なことです。この「気づき」が大事です。ウパニシャッドは言っています。**何回も何回も聞いて、覚えてください、覚えてください**、と。我々は忘れています、忘れています。忘れるばかりです。

ウパニシャッドは本当のお母さんです。普通のお母さんは息子、娘の幸せを考えて、子供のためになることを言っています。ですが、それは今生のことだけではないですか。息子、娘の解脱のことまでを考えるお母さんはとてもめずらしいではないですか。

「あなたは純粋です、あなたは自由です、あなたは賢いです」、お母さんがそのことを子供に教えるのは難しいですね。しかし、ウパニシャッドはそれを教えるお母さんです。本当のお母さんです。教えています。

何回も何回も聞いて長年勉強を続けるのはチャレンジです。家住者だけでなくお坊さんにとっても同じくチャレンジです。覚える、覚える、覚える。覚えないとまた束縛の感じが出ます。また、苦しみ、悲しみが出ます。それで困ります。

**＜「真理」の印象が残らない原因＞**

先ほど言いましたが、真理のことを何回も聞いているのにどうして印象が残らないのでしょうか。他の勉強のことを考えてみてください。例えば、料理を学びますとけっこう覚えて自分でもできるようになります。歌、踊りなども学べばけっこうできるようになります。

しかし、真理のことは学んで理解しても何回も忘れ、また世俗的な楽しみが好きになっています。その原因は何ですか。それを理解しないといけないです。真理のことを何回も聞かないといけない原因、何回聞いても印象が残らない原因は何ですか。

（参加者）教えを聞いたときは理解するのですが普段の生活に戻ると自分は身体という身体意識が強くなるので学んだことを忘れています。（マハーラージ）それでは、身体意識はどうしてこれほど深くて強いのでしょうか。（参加者）何度も身体意識を持って生まれ変わってきたからです。（マハーラージ）正しい答えが出ました。

我々は前生のことはわからないですし、数えきれないほど生まれ変わっています。**今までほとんどいつも身体意識を持って生まれ変わってきました**。今生で「あなたは身体ではない、アートマンです」ということを聞きました。たぶんそれは初めてのことです。前生までに聞いたことがあったとしてもその印象はあまりなくて今生まで続いていませんでした。真理のことを何回も聞いているのにその印象が入っていない、深くなっていないのは、今生までずっと身体意識で（自分は身体だと考えて）生まれ変わってきたのが原因です。

**＜インクの例え＞**

インク壺の例えでお話しします。例えば、インク壺を１０年間使ってその間一度も掃除していませんでした。今それを掃除しようと思いますがすぐにきれいにすることはできますか。

インク壺の内側には今まで溜まった汚いものがとても厚い層になって付着していますのですぐにはきれいになりません。何回も何回もきれいな水を入れて汚くなった水を出してまたきれいな水を入れてと、それをくり返すしかインク壺をきれいにする方法はありません。

それと同じように皆さんは自分の中に「きれいな水」を入れています。「きれいな水」とは**きれいな考え、純粋な考え、永遠の考え**のことです。**真理の教えを「聞く」の意味は「入れる」**ではないですか。そのイメージをしてください。心という壺の中は汚いものが厚く付着しています。すぐにはきれいにはならないですね。そのことを覚えていないといけないです。

「Tat twam asi（タット・トゥワム・アシ）、あなたはそれ（その存在＝ブラフマン）です」、「あなたはブラフマンです、あなたはアートマンです」、「あなたは永遠です、あなたは無限です、あなたは浄らかです」、それを何回も何回も何回も聞かないといけない。ウパニシャッドの中で、ときどき物語や例を使って同じことを何回も言っています。

**≪ナチケーターの３番目の願いとヤマの誘惑（復習）≫**

カタ・ウパニシャッドの物語に戻ります。死神は、あなたの願いを３つかなえますとナチケーターに言いました。２つの願いが終りましたね。最後の３番目の願いは何でしたか。

人が死んだ後どうなるのかについて、その人の存在が全部なくなるという意見と、或る部分は続くという意見と、２つの議論がありましたので、ナチケーターは死後のことについて知りたい、続くとすればどのように続くのかそれについても知りたいと願いました。

ナチケーターのこの願いは「アートマン」のことを知りたいという願いと同じことです。なぜなら、アートマンは人が死んでも残っていますから。粗大な体もなくなり、精妙な体もなくなり、原因な体もなくなりますが、**魂** ＝ **内なる自己** ＝ **アートマン**だけは残ります。

ナチケーターは言っています、「あなたは死神ですから人の死ぬ前の状態、死んだ後の状態を全部知っています。あなた以外にそのことをよく知る方はいません。ですからあなたから聴きたいです」と。

ナチケーターの知りたいことはとても複雑でとても神秘的でとても深い内容です。ナチケーターはとても若い方ですからヤマが説明しても無駄になる可能性があります。そこで、ヤマは、普通の人が願うような楽しみのものを提示してナチケーターを誘惑し、願いを変えてほしいと頼みました。

ヤマは、富や家族や長生きや王国などのこの世界の楽しみだけではなく、普通の人間には絶対に楽しむことができない天国の楽しみのものも提示しました。そのようにしてヤマがナチケーターを誘惑したのは、ナチケーターに真理を勉強するだけの準備があるかないかを最初に確認したかったからです。

ナチケーターはヤマの誘惑を拒否しました。それについて第２６節で話しましたね。

**≪カタ・ウパニシャッドPart 1 – Chapter 1 第２６節（復習）≫**

どうぞ読んでください。［マハーラージと皆が一緒にサンスクリットを読む］

次にその翻訳を読んでください。［皆が一緒に読む］

***［ナチケーターは言った］「死神よ、これらの楽しみはすべて一時的です。それだけでなく感覚の力を消耗させます。長生きしても（永遠に比べれば）短いです。馬車や踊りや歌はあなた自身のために取っておいてください。***

死神ヤマは、富、家族、長生きなど様々な楽しみのものをナチケーターに提示しましたが、それに対してナチケーターは、楽しみのものも楽しむ人も一時的なものだから楽しみは一時的なものであり、また、感覚の力も衰えていく、と言って楽しみのものを避けました。

**＜長寿も永遠ではない＞**

寿命が延びて今は１００歳になられる方も多くなりました。それと比べ天国にいる神々はもっともっと長い時間生きています。天国では病気もありませんし楽しみのものは全部フリー（無料）です。長い時間生きて楽しむことができます。しかし、それもいずれは終わります。永遠ではありません。始まりがあり、終りがあります。

ナチケーターはそのことを言っています。長い命であってもいつかは終わります。すべてのものはなくなります。それを意味するサンスクリットでとても美しい表現があります。

**Kalah jagatabhakshakah（カーラㇵ・ジャガタバクシャカㇵ）**

人間の食べ物と動物の食べ物とは同じでありませんね。しかし、それらを区別することなく食べる者がいます。それだけでなくその者は生き物と物とも区別せずに全部食べます。それはどなたですか。

答えは「**時間**」（カーラ）です。時間は、捕食者（**devourer**（ディヴァウアラー））です。

若さも美しさもどれだけ長く続くでしょうか。例えば、自分のことを考えてください。若さの状態はけっこう消えていませんか。時間は若さも食べます、美しさも食べます。お金も名声も親戚も全部食べます。一つの例外もありません。

歴史を振り返ってみればわかりますが有名な人がたくさんいましたね。例えば、アレキサンダー大王、ロックフェラー（大富豪）などなど枚挙にいとまがありませんが、その人たちは今どこにいますか。お墓（笑い）。ですから「カーラㇵ・ジャガタバクシャカㇵ」です。

その意味は「**時間は宇宙を食べている**」です。我々の食事はカレー、ご飯、味噌汁ですが、「時間」の食べ物は「宇宙」です。すべての生き物とすべての物を区別することなく食べています。怖いですね。善い人も悪い人も、聖者も罪人も、何も区別しません。それで、すべては或るとき存在していますが或るとき消えます。

皆さんは誕生日のお祝いをしますね。ハッピーバースデー・トゥー・ユー♪（マハーラージが歌う）（笑い）。それは本当に楽しみの日ですか。少し死に近づいているということではないですか。そのことを考えるとあまり楽しめないですね。それを考えないでハッピーバースデー・トゥー・ユーを歌い誕生日を迎えた人がロウソクの炎を吹き消します。

さて、「ジャガタ」の意味は「宇宙」ですが、「ジャガタ」には語源的に「いつも動いているもの」という意味があります。すべては動いています。時間を止めることはできません。河の流れのようです。身体も同じでいつも変化しています。細胞は変化しています。見えないですが絶対に変化しています。

「バクシャカ」の意味は「食べる者（捕食者）」（devourer）です。「時間は食べる者である」、美しい表現です。そしてナチケーターは言っています、「すべての生き物、すべての物はなくなります。私は永遠のものを知りたいです」と。

すべてのものはなくなりますし消えてしまいますけれども、**一つのものだけはなくなりませんし消えません**。そのことを覚えていないと聖典を勉強する目的に意味がありません。人生が悲観的なものになってしまうでしょう。しかし、聖典は、皆さん悲観してくださいと言っていますか。絶対にそのような助言ではありませんね。

では、生きる目的は何でしょうか。例えば、最終的に亡くなることを考えるといつ亡くなっても同じではないかという混乱が起きることがあります。しかし、それは生きる目的が何かを知らないからです。

ウパニシャッドは言っています、「**本当の生きる目的は真理の勉強をするためです**。なぜなら、それ（真理）だけは永遠ですから」と。ナチケーターは、すべてのものは一時的だから永遠のものを教えて欲しいと、同じことを言っていますね。

すべてのものは一時的です。今日ありますが明日ないかもしれないです。皆さんの中で明日も１００％確実に生きていると断言できる人はいますか。例えば、大地震が起きたらどうなるでしょう。この瞬間は生きていますが次の瞬間が絶対に確実ということはないです。日本人はその思いが強いのではないでしょうか。津波や福島のことなどを考えてください。

ですから永遠のことを勉強した方がいいです。**カーラ（時間）も食べることができないもの**、それが**アートマン**です。どうですか、面白いではないですか。**アートマンを知りたい、真理のことを勉強するために私は生きたい**、それが本当の生きる意欲（やる気）です。

どうですか、理解できましたか。我々が生きるのは、お金のためでも家族のためでも名声欲のためでもありません。**真理のことを知りたい**、そのためです。そしてウパニシャッドは言っています、「**最高の人生の目的**（**Parama Purushārtha**（パラマ・プルシャールタ））は**解脱**（モクシャ）である」と。

**真理を悟りますとその結果で解脱することができます**。真理の勉強はそれが目的です。他の目的を満足してもかまいませんが、**この目的のことは忘れないでください**。ナチケーターは死神に「私は真理のことを勉強したいです」と言っています。では、第２７節を見てください。

**≪カタ・ウパニシャッドPart 1 – Chapter 1 第２７節≫**

***na vittena tarpaṇīyo manuṣyo lapsyāmahe vittamadrākṣma cettvā；***

***ナ　ヴィッテーナ　タルパニーヨー　マヌッショー　ラプスヤーマヘー　ヴィッタマッドゥラークシュマ　チェーットヴァー；***

***jīviṣyāmo yāvadīśiṣyasi tvaṁ varastu me varaṇīyaḥ sa eva.***

***ジーヴィッシヤーモー　ヤーヴァディーシッシュヤシ　トゥヴァㇺ　ヴァラストゥ　メー　ヴァラニーヤㇵ　サ　エーヴァ***

［「カタ・ウパニシャッド カタカナ読み表示と日本語解説」のサンスクリット語のカタカナ表記をマハーラージが最初に少しずつ唱えて皆がそれに続いて唱え、最後にマハーラージと皆が一緒に唱える。次の第２８節も同じです。］まず、節の語を分けます。

前段の「na vittena tarpaṇīyo manuṣyo lapsyāmahe vittamadrākṣma cettvā」は「na vittena tarpaṇīyaḥ manuṣyaḥ lapsyāmahe vittam adrākṣma cet tvā」（ナ　ヴィッテーナ　タルパニーヤㇵ　マヌッシヤㇵ　ラプスヤーマヘー　ヴィッタㇺ　アドゥラークシュマ　チェート　トヴァー）になります。

後段の「jīviṣyāmo yāvadīśiṣyasi tvaṁ varastu me varaṇīyaḥ sa eva」は「jīviṣyāmaḥ yāvat īśiṣyasi tvam varaḥ tu me varaṇīyaḥ saḥ eva」（ジーヴィッシヤーマㇵ　ヤーヴァト　イーシッシュヤシ　トゥヴァㇺ　ヴァラㇵ　トゥ　メー　ヴァラニーヤㇵ　サㇵ　エーヴァ）になります。

言葉の意味を言います。前段の「ナ」は「～でない」（否定）、「ヴィッテーナ」は「富で」、「タルパニーヤㇵ」は「満足する」、「マヌッシヤㇵ」は「人は」、「ラプスヤーマヘー」は「もらいます」、「ヴィッタㇺ」は「富」、「アドゥラークシュマ」は「（あなたを）見ました」、「チェート」は「～なので」、「トヴァー」は「あなた」

後段の「ジーヴィッシヤーマㇵ」は「生きます」、「ヤーヴァト」は「或るときまで」、「イーシッシュヤシ」は「（あなたの）影響で」、「トゥヴァㇺ」は「あなた」、「ヴァラㇵ」は「願い、恩恵」、「トゥ」は「だけ」、「メー」は「私に」、「ヴァラニーヤㇵ」は「私が欲しいもの、願い」「サㇵ」は「その」、「エーヴァ」は「本当は」です。

全体の意味は、「人は富で満足することはできません。私（ナチケーター）はあなた（ヤマ）を見ましたからあなたの恩寵でいろいろな富をもらうことができます。あなたは死神ですから、長生きを願えばそれもあなたの力でかないます。しかし私にそれらの願いはないです。真理のこと、魂のことを知ることだけが私の願いです」になります。

富はお金だけではなく、例えば、家族、建物、食べ物、飲み物、衣服、親戚、宝石など、全部入っています。富はそれら楽しみのもの全部を含むシンボルです。しかし、人はそれで満足することができません。どうして満足することができないのでしょうか。

とてもお金持ちの人の毎日の生活を観察すればすぐにわかります。大金持ちになりますとお金はたくさんありますが心配もたくさんになります。例外はないです。泥棒だけでなく身内の者も信じていないです。

大金持ちの人は自分の息子、娘、奥さんさえも信じることができません。財産を目当てに食事に毒を盛られるという例もあるくらいですから恐怖を覚えています。そのような人生は理想的な人生ですか。お金がたくさんあると幸福もいっぱいですが心配もいっぱいです。

スカ（sukha）とドゥカ（duḥkha）は一緒に来ます。スカが楽しみ、ドゥカは悲しみです。楽しみと悲しみは双子です。コインの両面です。コインの表と裏を分けることができますか。できないです。楽しみと悲しみ・苦しみは同じです。双子です。絶対一緒に来ます。皆さんそれを避けたいと思いますがそれはできないです。

そして、ナチケーターは「人は富で満足することはできません。私はあなたを見ていますから富をもらうことができますし長生きすることもできます。しかし、それが私の願いではありません。私の一番の願いはそれ（真理のことを知りたい）のみです（ヴァラストゥ　メー　ヴァラニーヤㇵ）。それが最高の願いです」と言っています。次は第２８節です。

**≪カタ・ウパニシャッドPart 1 – Chapter 1 第２８節≫**

***ajīryatāmamṛtānāmupetya jīryanmartyaḥ kvadhaḥsthaḥ prajānan；***

***アジーリヤターマムリッターナームペーティヤ　ジーリヤンマルティヤㇵ　クヴァダㇵスタㇵ　プラジャーナン；***

***abhidhyāyan varṇaratipramodā - natidīrghe jīvite ko rameta.***

***アビッディヤーヤン　ヴァルナラティップラモーダー－ナティディールゲー　ジーヴィテー　コー　ラメータ***

節の語を分けます。「ajīryatāmamṛtānāmupetya jīryanmartyaḥ kvadhaḥsthaḥ prajānan」（前段）は、「ajīryatām amṛtānām upetya jīryan martyaḥ kvadhaḥsthaḥ prajānan」（アジーリヤターㇺ　アムリッターナーム　ウペーティヤ　ジーリヤン　マルティヤㇵ　クヴァダㇵスタㇵ　プラジャーナン）になります。

「abhidhyāyan varṇaratipramodā - natidīrghe jīvite ko rameta」（後段）は、「abhidhyāyan varṇa-rati-pramodān atidīrghe jīvite kaḥ rameta」（アビッディヤーヤン　ヴァルナ・ラティッ・プラモーダーン　アティディールゲー　ジーヴィテー　カㇵ　ラメータ）になります。

意味は、「クヴァダㇵスタㇵ」は例えば「この世界」、「ジーリヤン」は「衰えます」、「マルティヤㇵ」は「亡くなります」、「アジーリヤターㇺ」は「（ですけれど）衰えないもの」、「アムリッターナーム」は「亡くならないもの」、「ウペーティヤ」は「（衰えない、亡くならない、その種類のもの）の近くに行って」、「プラジャーナン」は「（それを）悟って」です。

「ヴァルナ・ラティッ・プラモーダーン」は「肉体的な美しさから生じる快楽」、「アビッディヤーヤン」は「識別して」、「アティディールゲー」は「長い」、「ジーヴィテー」は「命」、「カㇵ」は「どなた（誰）が）」、「ラメータ」は「楽しめます」です。

全体の意味は「この世界では、すべてのものは衰えます、すべてのものはなくなります、すべての美しさもなくなります。そのことを理解した人の誰が長生きを願うでしょうか」です。

理解することは２つあります。すべての楽しみのものは一時的です、なくなります、その理解が一つです。或るものは永遠です、不死です、なくなりません、それがもう一つの理解です。このように「２つの理解」をしますと、その人は一時的なものは欲しくなりません。その人が欲しいのは永遠なものです。それがこの第２８節の本当の意味です。

**＜アビッディヤーヤン＞**

この中で一番大事なポイントは「アビッディヤーヤン」です。この言葉はとても大事です。「深く考える（contemplated）」という意味です。深く考える人には今の「２つの理解」がありますが、普通の人にそのような理解はありません。普通の人の考えは浅いです。

「深く考える」の内容は「比べる」です。選択肢が二つあり、一つの選択肢は楽しみのものです。普通の皆さんは楽しみのもの、快楽が好きではないですか。食べ物、飲み物、友だち、家族、服など、楽しみのものが好きです。しかし、楽しみのものはみな一時的です。

もう一つの選択肢が永遠なもの、「真理」です。そのようにして比べる人が「深く考える」人です。「比べる」は哲学の言葉で「識別する」です。何が一時的、何が永遠、何が有限、何が無限、何が世俗的、何が霊的、それが「識別」ではないですか。その識別をしないと真理のことを理解しようという知識の意欲（やる気）は出ないです。

参加者の皆さんのレベルはさまざまですが、どの方にも真理のことを理解したいという思いが絶対にあるはずです。そうでなければこの講話に参加していないです。こうして参加しているのはみな神の恩寵があるからです。普通の人は真理について考えていません。

すぐ隣は武道館です。ここに集まっている人は５０人くらいですが向こうには５千人あるいは１万人です。走っています。早く入りたい。そのときインド大使館には５０人です（笑い）。武道館に行く人たちと何が違いますか。その人たちは真理のことに興味はないです。あっても楽しみのことの方が好きです。

「真理が何か」を少し知りたい。その興味がこの勉強の窓口です。そこから始まります。それから先どのように進めるかはケースバイケースですが、この勉強はヒンドゥー教の考えで神様の恩寵です。そうしないとできないです。

「アビッディヤーヤン」はサンスクリットで「ヴィヴェーカ」と言っています。スワーミー・ヴィヴェーカーナンダの「ヴィヴェーカ」です。識別（ヴィヴェーカ）が好きな方がヴィヴェーカ・アーナンダ（ヴィヴェーカーナンダ）です。アーナンダは「好き」という意味です。

普通の人は、お酒・アーナンダ、カラオケ・アーナンダ、パチンコ・アーナンダ（笑い）。それから、食べもの・アーナンダ、コンサート・アーナンダなどなど。ですから、ヴィヴェーカ・アーナンダは特別ではないですか。ナチケーターはヴィヴェーカ・アーナンダです。

ヴィヴェーカが好きな人、ヴィヴェーカがうれしい人は誰でもヴィヴェーカ・アーナンダです。ヴィヴェーカ・アーナンダはその種類の人の総称です。

真理のことを学ぶには先生のレベルが大事です。皆さんが真理のことを聞きたくても先生のレベルはいろいろです。ですから、一番高いレベルの先生から学びたいですね。スワーミー・ヴィヴェーカーナンダにとってはシュリー・ラーマクリシュナが、聖ペトロ、聖パウロにとってはイエスが、アーナンダにとってはブッダが、それぞれいらっしゃいました。

ナチケーターは自分にとって一番高いレベルの先生、ヤマのところにいます。そのように一番高いレベルの先生には全部の願いをかなえる力があります。何でも願うことができるのであれば「一番高いもの」をもらった方が良いではないですか。

「ラーマクリシュナの福音」（日本ヴェーダーンタ協会）の中にこのような話があります。王様の前に行き、何でもお願いを聞いてもらえるというのに、その人はナス１キロが欲しいと言いました（笑い）。王様は笑ってＯＫ、どうぞもらってください。一番高いものをもらえるのにナス１キロとはなんともったいないではないですか。

ナチケーターは最高の先生のヤマに言っています、「私はあなたから真理のことを学びたい」と。今日はここまでにします。次回は第２９節からでその節が終ると第１章が終ります。

［付記（Ｑ＆Ａ）］

１．パラマ・プルシャールタ（Parama Purushārtha）について

　プルシャールタ（Purushārtha）はプルシャ（Purusha）とアルタ（artha）とを合わせた言葉です。アルタには「富」という意味のほかに「目的」という意味があり、ここでは「目的」の意味です。そして、プルシャールタは「人生の目的」という意味です。人生の目的は４つあります。①Dharma（ダルマ）、②Artha（アルタ）、③Kāma（カーマ）、④Moksha（モクシャ）です。（ウパニシャッド-25参照）

パラマ（Parama）は「最高の」、パラマ・プルシャールタは「最高の人生の目的」という意味です。そして「最高の人生の目的」は「モクシャ（解脱）」です。

ちなみに、「パラマ」の付く言葉には、「パラマハンサ」（偉大なスワン、意味は識別する人で、例えば、シュリー・ラーマクリシュナです）、「パラマートマン」（偉大なアートマン、すなわちマクロレベルのアートマンです）があります。

２．「ヤマ」という言葉について

　ヨーガ・スートラの「ヤマ」の意味は「コントロールする」です（バガヴァッド・ギーター講話2015-02-07参照）。そして死神「ヤマ」はすべてをコントロールする方です。ヨーガ・スートラの「ヤマ」は個人のレベルで感覚のコントロール、心のコントロールなどいろいろのコントロールをすることです。

　同じ言葉であっても前後関係で意味が異なります。サンスクリットだけでなく、どの言語にもそのようなことがありますね。

３．devourerについて

　devourerは「食べる人」で、時間はすべてを食べています。宇宙は時間の食べ物です。人生も一日経つとその分だけ（カーラが食べて）減らされます。バーナード・ショーは誕生日を楽しめないと言っています。なぜなら誕生日が来るとそれだけ死に近づくからだ、とコメントしています。

４．カーラ（時間）とプラクリティについて

　心が働かないとカーラ（時間）というコンセプトはないです。例えば、深く眠っているときに時間の意識はありませんね。それは心が働いていないからです。サマーディのときも同じです。サマーディに入りますと空間、時間の両方について意識がなくなります。

　例えば、いつもと違う場所で深く眠り目覚めたときに自分がどこにいるのか、わからなくなった経験はないでしょうか。それは、深い睡眠のあいだ心が働いていなかったからです。起きますとまた心が働きますから、時間と空間のコンセプトが始まります。

　しかし、深い睡眠のとき、**心が働かなくても「魂」は続いています**。そうでなかったら、皆さんその深い睡眠のときになくなっています。

　だから、真理（魂）のことと比べれば、時間も永遠ではなく一時的なものです。

一時的なものは全部プラクリティです。したがって、時間というコンセプトはプラクリティのものと考えることができます。

以上